

賢く節約

得のススメ

節水

阪神大震災から16年。蛇口をひねれば出る水のありがたみを思い出す一日だ。不況で節水意識は高まりをみせるが、世代間で意識差もみられる。「水を漏らさぬ」暮らしに向けて、対策を見直そう。

(織田淳嗣)

湯船は4人から

兵庫県相生市の水道事業「児島工業」の節水アドバイザー、児島勇気さん(31)は震災で水が使えない不便を経験した一人だ。「『天変地異に備える』という点ではなく、普段から水を大事にする意識を持つてほしい」と、サイト「節水ミニエール」(<http://seiyakumanyuan.com/sessui/>)を運営している。児島さんによると、この季節のポイントはお湯になるまでの水「をためておくこと。風呂場にバケツを置き、お湯が出るまでに流すわずかな水をためて洗濯などに使う。台所でも、お湯になるまでの水はやかんやポットに入れ、お茶などに使う。風呂をシャワーにするか、湯船にするかは悩みどころ。児島さんの計算では、一般的な浴槽で使う水は約2000リットル、シャワーは15分で約180リットルを使用する。体や頭を洗

っている最中は止めてシャワーを使う時間を計測したところ、4分23秒だった。「3人家族なら、シャワーの方がお得という目安」(児島さん)水道料金は地域によって異なるが、基本料金に従量料金を加える場合、「従量料金が大きくなれば上がるポイント

意識して」と児島さん。東京23区と多摩ニュータウン地域でみると、従量料金は6〜10立方メートルまでは1立方メートルあたり22円。ところが、11〜20立方メートルでは約6倍の128円に膨らむ。水道のメーターボックス付近にある、水圧調整を行う止水栓を少し閉めることで、水量を減らすことができ

木の水やり、水槽の水には有効だ。サンエービルドシステム(東京都葛飾区)の雨水タンク「ミニダム」(家庭用は200リットルで5万2500円)は同区内で設置した場合、2万5千円を上限に区から助成を受けられる。

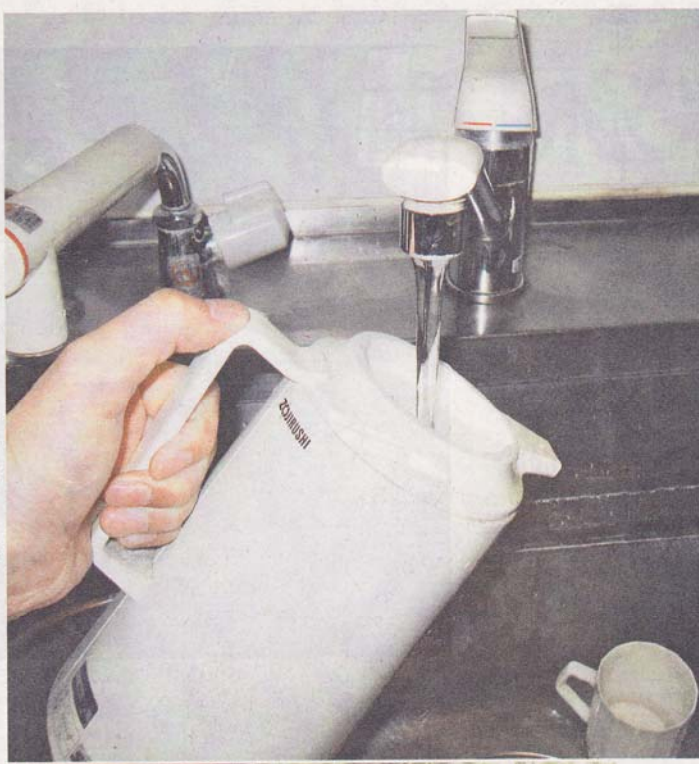
「ミツカン水の文化センター」(中央区)の意識調査(今年成人式を迎えた男女400人を対象に実施)によると、新成人の4割が節水をし

ていなかった。「親と同居している人が多く、まだコスト意識が低いのでは」(同センター)

節水に加え、「使い回し」も大切だ。コメのとき汁を植木などの水に使ったり、野菜などをゆでたお湯は食器洗いやすすぎに使ったりする。コメのとき汁は油分を含んでいるため、霧吹き器に入れてフ

ローリングの洗剤にすれば、つやを出すことができる。家計を担う主婦以外の家人も生活力を身につけることが有効な節水策となりそうだ。

風呂にバケツ／ときぎ汁で床磨き



お湯で洗い物をする前に出てくる水は、やかんやポットに入れて使う



東京都大田区の家を設置された雨水タンク「ミニダム」。家庭菜園の水やりを活用されている(サンエービルドシステム提供)